

日本維新の会共同代表・橋下徹殿

橋下「維新の会」共同代表の旧日本軍「慰安婦」制度肯定の 暴言に抗議し、その撤回と大阪市長を辞することを求める

2013年5月14日 日本平和委員会

日本維新の会の橋下徹共同代表(大阪市長)は13日、旧日本軍「慰安婦」問題について、「慰安婦制度というものが必要なのは誰だってわかる」として、慰安婦制度そのものを正当化し、女性の人権を踏みにじる世界に恥ずべき暴言を吐いた。

また、「日本政府自体が暴行脅迫をして拉致したという事実はいまのところ証拠で裏付けられていない」と、改めて「慰安婦」強制の事実を否定する立場を表明した。

さらには、沖縄県を1日に訪問した際、海兵隊の司令官に「もっと風俗業を活用してほしい」と求めたことを得意げに明らかにした。

ここには、軍人の性的はげ口として売買春や性奴隷制度を当然視する恐るべき人権意識が露骨に示されている。

旧日本軍がつくった「慰安所」に女性を拘束し軍人らの性行為の相手を強いた「慰安婦」制度が、「軍当局の要請により設営され」「強制的な状況の下での痛ましいものであった」ことは、政府も1993年の河野洋平官房長官談話で明確に認めている。これを否定することは、人権を蹂躪され、人間の尊厳を踏みにじられた被害者たちを再度傷つけ踏みにじるものであり、断じて許すことはできない。

橋下氏が安倍首相の日本の過去の戦争を侵略戦争と認めない議論に賛意を表していることと合わせ、人権感覚が完全に欠落し、侵略戦争への反省や痛ましい「慰安婦」制度に対する反省のないこのような人物に、市長を務める資格も、政治家としての資格もない。

我々は橋下氏に対し、「慰安婦」制度を肯定し、その強制の事実を否定する発言を撤回することを求めるとともに、大阪市長をただちに辞職することを求めるものである。